



兵庫道場に於る會長挨拶外三点

特別  
又6  
8490  
1845  
早稲田大学図書館





76  
8490  
(1845)

76  
8490  
(1845)

兵庫道場開仁於了會長挨拶

昭和十六年二月十二日

参部 女 策 貳 號







意を表すると同時に道場の今後の  
発展、大成に關して各位の更に  
大なる支持と厚き啓導を仰ぎ  
度謹んで御願申上げて置ま  
す。

却説此機會に於て温故知新の  
意味を以て我が日本青年協會の  
誕生並其發育の由來に就て聊か  
回顧しで見たいと存じます。此の  
回顧に關聯しては是非共彼の學

一言の  
敬へば  
新なるもの  
が續出し、

校教練や青年訓練（今日の青年  
學校の前身）の創始を聯想せねば  
なりませぬ。此の教練、訓練の創設  
せら水まじたる當時の我邦の社會狀  
勢は參列多數各位の記憶には高  
新なるものが存すると思ひますが、  
實に暗澹たるもので御國の前途に  
對し棘然たるものがありたのでありま  
す。即ち産業界には怠業、罷業  
が續出し、學園には同盟休校、教師



排斥等類發し、東亞問題の根本解決の爲に千載稀有の好機を掴み、西伯利亞出兵の如きも平和と拜金に陶醉中毒せる國民間には贊意も理解も起らずして遂行の熱意を飲ぎて機會を逸して福根を今日<sup>本邦</sup>後に遺存し來りしが如き、或は神苑内に飾られある戦利兵器撤去方が公然として社會上流の人士によりて唱道せられたるが如き

此の江元  
の宣快  
は、

、其他今日下は全然問題にならざる  
ことでありますが私共は在郷軍人  
會合の席上下祝祭日に國旗の掲揚  
を忘れるなど反復高唱せざるを得  
ざりしか如き悲惨なる時代にて、舉  
げ來れば斯の如き實例はザラに  
ありたのであります、<sup>約言す</sup>水は  
外來文化の短所缺點が隅々までも  
侵透して日本固有の道義は地を拂  
ひ物質萬能、個人主義、自由、享樂、



形々の言文  
七つと和文  
七つと和文  
一とあり  
の飾り  
十の飾り  
申せば

浮華、放漫、墮落の傾向、澎湃として、  
全國に彌蔓し、際<sup>（東京）</sup>に方り  
突如として帝都<sup>（東京）</sup>を中心とする関  
東地方に大震災火災が起りたので  
あります。其際に於ける民衆の  
周章狼狽、秩序節制を欠ぎ、舉措  
常軌を脱逸したる有様は、言語同  
断にて、<sup>（負）</sup>と國民訓練の欠陥と  
修養の欠乏と遺憾なく暴露して、  
心あるものをして御國の前途に對

其の

して深憂を掩おしめたのであります。  
す！

斯の如き滔々たる亡國の頽勢を  
挽回し、是正して國蹊の堅確を期  
する爲に、<sup>（當時）</sup>に<sup>（當時）</sup>をたる世論の反  
對をも敢然として排斥し、毅然と  
して創始せられたのが所謂彼の學  
校教練と青年訓練との二大國策  
的の施設でありましたのである。此  
の施設の對照として、<sup>（大）</sup>今日<sup>（大）</sup>の日本



き負荷して居る老年―壯年―者は  
 間もなく昨日の人となるのであるか  
 ら、夫れよりも寧ろ<sup>現存は</sup>明日の  
 人であるけれど、直ちに今日の  
 人となるべき<sup>青年</sup>の陶冶訓練  
 に力を傾注すべきであるとして  
 學校教練と青年訓練が創始  
 せられたのであります。此の施設  
 の遂行に呼應し、夫等に適應せ  
 る指導者も供給し、又夫等の中堅

掛る倒し  
 下イデオに  
 ギーの羅列  
 心は足す  
 相にきいせ

を形成すべき有為の青年を陶冶  
 訓育すべき目的を以て、日本青年  
 協會が組成せられ、<sup>送る</sup>月のであります。  
 爾來<sup>時程</sup>有三年、其間幾多の波瀾や  
 曲折<sup>や</sup>を経<sup>経</sup>たが、幸に大方各位  
 の格段なる支持と援助の御蔭を  
 持ちまして、次第に會勢も整備  
 し、<sup>日</sup>發達を遂げ來りたのでありま  
 すが、<sup>吾等</sup>静に過去を顧みますと、<sup>毎</sup>員  
 に感慨無量であります。丁度本



○  
吾々の苦悩に  
伴ふ所半好の  
効果は改は  
として折るは

會の遣吾々の共つて参りた仕事は概して  
世の中の進み方に五六十年先人にて  
居る有様であります即ち本  
會は日本精神と學者、實行家の  
研究とを一体としたる體驗に重  
きを置き専ら實踐躬行を主旨  
とする松下村塾的に比較的長期  
に亘る道場訓練を創めま  
したか四五十年後れましてボツと  
同様の施設を處々に見るに至り、

○  
先愛後年  
と申すは  
城に在る  
のほり  
遠くまで  
ます

更に最近の五六年来は雨後の筍  
の様に農民道場丈けは天下に叢  
生する有様でありますが、高工青  
年に對する施設は遣り方六式も前者  
の様に單純には参りませぬから未  
だ著しき發達を遂げては居り  
ませぬや而して當協會の年々にて  
今日迄に育成致しましたる幹部  
級の中堅青年は千余名、教練訓  
練の指導者八百余名及各地方に



於ける協會支部の講習<sup>等</sup>に依りて  
指導したる青年が約二萬余を  
算するに到つたのであります。  
以上は協會創設の由來及現在  
までの経過の概要でありますが  
更に進んで協會は如何なる情態  
にあるか、今後如何なる針路を  
採らんとするか、の企圖の概畧を  
紹介申し上げ<sup>て</sup>共鳴と支援を仰  
ぎ度と存じます。

即ち東京麻布に協會の本部を  
置き又地方の府縣に亘りて支部  
二十六を有し尚續々と増設の計  
画を進めて居ります。而して本  
部には一の道場を附設し、其外  
千葉縣船橋市在に農業中心の  
道場、甲州八ヶ岳の中腹に學生  
の爲の夏期修養道場及近江商人  
發祥の中心地とも目すべき滋賀  
縣五ヶ村に高工青年をして歴







き本會に依拠せらるることになり  
 愈々本月一日から第一回生として  
 選拔せられた青年約百名を入場  
 せしむるの運に相成り多年の  
 宿望茲に其緒に就きたる次第  
 であります。尤も本協會にて訓  
 練を受けたる青年にして現に既に  
 滿洲、北支、中支、海南島、ホルネス  
 等に於て支那事業に従事し  
 たるものも相當數に上つて居り

南支那の事

ます。而して本日茲に目出度  
 兵庫道場の開設を見、又近く秋  
 頃までは大阪郊外に新装を  
 整へたる道場を出現せしむべく  
 期待して着々と準備を進行  
 せしめて居る所であります。  
 本協會の現状は右に御話申  
 上たる通りであります。然らば  
 今後如何なることとせし居  
 るかと申します。本外は時々の趨向



は協會事業の充實員強化を要望  
 して居りますので、爲したき事は山  
 々々々存<sup>在</sup>し、現時の情勢に鑑みま  
 して海國下ありなから、日本は  
 存外海洋に關する智識も乏し  
 征服するの手腕も乏し、會員狀  
 に於ては海に關する道場も必  
 要であり、又東亞經濟圏の確立  
 には地下資源の開発が急務  
 であり、緊要である。

山國位  
 の海  
 元か

は鑛山に關する道場の施設を  
 も近き将来に實現致し、度考  
 へて居ります。將又青年男子の  
 陶冶と並んで國民の半數を占む  
 る女子を訓練するの施設も國  
 家的に極めて必要と存  
 ます。此等の施設は將來深  
 各位の共鳴と協力を希ひ、速  
 に會員現することとを祈りて止ま  
 らぬ次第であります。



九  
お  
命

下午の長談義で清聴を煩  
ばしたることを御談公申上げ  
ると同時に重ねて御禮を申上げ  
述へ併せて今後の處即ち協  
會事業の充實強化に關し何  
分共々宜しく御願申上げて  
御挨拶を終ります。

新



26  
2490  
(1845)

宮崎縣支部教會式告辭

支部、又第參號

昭和十六年十月十日  
於宮崎



告辭

本日茲に日本青年協會宮崎縣  
支部結成式を舉行するに際し、折  
柄防空演習にて御多忙中にも拘ら  
ず、各界官民有力者多數の御参列  
を得たことは、吾々協會の事業に携  
る者として光榮の至りに存じ感謝  
措く能はざる所であります。

御當地宮崎は薩摩國の歴史に輝く  
聖地を有し、日本人の魂の故郷とも



申すべし地であります。即ち飛云に  
聳ゆる高千穂の峰を仰ぐ時、吾々  
の胸奥には自から、天孫降臨の神聖  
壯嚴而かも萬邦無比の感激が湧き  
起るのであります。更に神武天皇の  
御東征の偉業を拜すれば、日八紘を  
掩ひて宇とせむの雄輝なる健國  
の大理相心に、日本人たるの光榮を牛料  
々と感心するのであります。この山  
紫水明、日本人の魂の搖籃たる御

當地が、時局下にあつて一致協力、益々  
發展の一路に進みつつあることは、洵  
に御同慶の至り且心強く存じます  
す。

宮崎市附近には従来日本青年協會の  
會員數も少く、従つて協會志勳の手  
も餘り伸びてゐなかつたのであります  
が、縣、市當局、有力者各位の格別  
なる御配慮に依つて、今日志勳の第一  
歩を踏み出し、しましたことは協會と



して、非常に有難い次第であります。殊に支部結成に至るの間、中武俊顕氏の如きは文字通り不眠不休の努力を續けられ、付水て後止むの概を以て目的達成に進まれたのであります。これが在郷将校の真面目を發揮したものと感謝に堪へませぬ。

この機会に於いて、各位の御盡力に謝意を表し、尚今後の御支援をお願いして置き度いと考へます。

今更申す迄もなく、青年は國家の中堅を形成するものであり、殊に現在の戦時下に於きましては戦線、戦後の別なく、彼等は悉く第一線に起つて挺身努力するの使命を双肩に擔つて居るのであります。従って強く、明るく、正しい青年を錬成する事は國家の急務であり、彼等の墮落は國家の衰退と一招来致します。古来中堅青年の頽廢、無氣



力に依って、國家の亡ぶた例は、歴史  
の中に現はれてゐる通りであります。  
す。

斯くの如く青年の責務は重且つ大、  
青年悉く奮立つ時國家興り、彼  
等滅りたる時國家衰ふとこへ考へ  
られるのであります。吾が日本青年  
協會の使命は、この青年の重大なる  
任務に鑑み、これを正しく導き、心  
身共に健全なる國家の一員を鍊成

陶冶することにあるのであります。  
こ水即ち、國家興隆の礎石なりと  
確信してゐるのであります。

さて、この機會に於いて、簡單に  
日本青年協會の誕生の由来を回顧  
して見たいと思ひます。

とこの歐洲大戰の反動に依り、御  
承知の如く我が國の社會状態は實  
に暗澹たる時代があつたのであり  
ます。一例を舉ぐれば産業界に



於ては勞資が對立して怠業、罷業の續發、學校に於ては同盟休校騒ぎ、都鄙を問はず青年層は一般に名々として墮弱の氣風に馴れ、日本固有の道義全く地を拂ふの有様で、吾々としては深き自愛へに関され

たものであります。換言すれば、消<sup>化</sup>せられざる外来思想、享樂的な文化の瀰漫によつて、日本精神に曇りが生じ、物質

偏重、個人主義、自由、享樂、浮華等の傾向が膨<sup>張</sup>し、<sup>び</sup>として全國的に風靡した際、東京を中心とする關東地方に大震災が突發したのではありませんが、其際一般大衆の無秩序無統制、周章狼狽の有様は全く言語に絶するものがあり、私共はその中にあつてこれを目睹し、國民訓練の不備を痛感すると共に皇國の前途に對して深き自愛すら抱いたの



であります。

斯くの如き亡國の風潮を堰き止め、これを是正するには青少年の徹底的鍛成の外はないと考へ、世論の囂々たる反對を押し切つて、かの學校教練と青年訓練とを断行したのであります。爾來、今日に至るまで青年訓練の方は青年學校と變りましたが、兩者ともに所期の効果を收め、畏くも學校教練は昨年、青年訓練は本

年御親展の榮に若する等、海員施當初の海員情を思ひ合せて、感慨海員に無量なるものがあります。

國家の中堅たる青年は、同時に來るべき日本を背負ふて起つ重責を帯びて居り、これが陶谷薰陶に力を注ぐのが、何を指へても急務なりと確信して、學校教練と青年訓練が創始せられたのであります。この施設の遂行に呼應して、それ等に適應せる指導者を



育成し、且又その中堅となるべき有  
為の青年を訓育する目的を以つて、  
昭和三年の秋、日本青年協會が組織せ  
られ設立されたのであります。私は  
創設以来、會長として及ばず乍ら  
銳意、協會の目的達成に努力して来  
た次第であります。

爾來十有三年、協會も全國各方面の  
有力者各位の格別なる理解と支持、  
援助のお蔭を持ちまして漸次會勢

の整正備を遂げ、進歩發展の途を  
進んて来たのであります。只徒ら  
なる掛け聲倒れ、或は青年を煽  
動する連中とか、紙上計画やイデオロ  
ギーの羅列で事足れりとする者の  
多い世相に當面して、静かに過去を  
顧みますと吾々には、實に今昔の  
感に堪へざるものがあります。

吾々は飽迄日本精神を根幹とな  
し、學者、實際家の研究体験の一



体化に重点を置き、専ら會員踐躬行  
を本旨として進んで来たのであります。  
それは吉田松蔭先生の松下村塾の精  
神に合致するものであり、心から心に  
通ふ、魂と魂の觸れ合ふ、即ち血の  
脈動する教育訓練を眼目とするも  
ので、協會綱領に  
一、尊王愛國の誠ヲ竭シ敬神崇祖ノ念ヲ  
養フベシ  
一、博愛共存ノ道ヲ篤クシ自治協同ノ

風ヲ興スベシ

一、攻學遷善ノ志ヲ旺シ會員踐躬行ノ  
實ヲ擧ゲベシ

とありますが、それによって自らお判  
りの事と信じます。而して協會に於  
いて今日迄に育成しました幹部級  
の中堅青年は千餘名、教練訓練  
の指導者約千名及各地方に於ける  
支部の講習によつて指導した青年  
二萬餘を算するに至つて居ります。



然し吾々はその數を誇るものではない  
りませぬ。明治維新回天の大業は、  
殉國挺身の熱意に燃ゆる薩長土  
肥等少數の人々の力に依つて成せ  
られたのであります。吾々も真に實  
力ある有為の青年を全國各地方に  
持ち得て、而かも彼等は中堅として  
一部若、一村が覺醒しこれを更に押  
し擴げて一致協力、この時局を雄々し  
く乗切つて行くことを待望してやま

なひのであります。

次に協會の現状と將來の意圖を  
簡單に紹介して置きます。協  
會は東京麻布に本部を置き、地  
方各府縣に亘つて三十有餘の支部を  
有し、今後それれ増設の計畫を  
進めて居ります。而して本部には  
一の道場を附設し、その他千葉縣船  
橋在に農業中心の道場、甲州八ヶ岳  
の中腹に學生の爲に夏期修練道場、



近江商人發祥の由緒を持つ滋賀縣  
五ヶ杵村に、商工青年を土に歸らし  
めて鍛練する關西道場、六甲山麓に  
兵庫商工青年道場、新しく東北に福  
島道場、又大阪郊外に大道場を新  
築し近く道場開きを致す運ぶに  
至って居ります。更に協會としては  
設立以来、青年の海外發展は日本の  
國策として極めて緊要であるを痛  
感し、種々の施設を試みて来たの

であります。が、滿洲國、北支等に就い  
ては近年政府當局を力を注いで居  
りますので、吾々は南支、南洋方面  
に着目して御奉公致し度いと考へ、  
昭和十三年海軍、拓務等の當局と協  
議連絡して、南進の前進基地として  
台湾に道場建設の計画を樹てたの  
であります。計らうも台湾總督府に  
於て拓土訓練道場を台中に新設せ  
られることになり、その經營指導を



協會に委託せらるるに至り、既に  
その第一回生約百名は現在道場に在  
りて塔々鉄を揮ひ、南進の先驅者  
たらんとして奮闘して居ります。  
而かも協會にて訓練を受けたる青年  
の中から、海南島に赴いて、拓土とし  
ての使命を遂行中のものも相當數に  
上つて居るのであります。

然らば協會は今後如何なること  
を企圖してゐるかと申ししますれば、

内外多端の折板、協會本来の使命  
に鑑み一層事業の充實強化をはか  
ると同時に、種々の計畫を有して居り  
ますが、現勢に應じて緩急をばか  
り適當に按配して行かねばならぬ  
と考へて居ります。海洋道場の  
計畫も進めて居りましたが、これは  
海軍當局で設置せらるる事に成  
りましたので、その方にお任せする  
事に致し、地下資源の開發の戦士



のために鎌山道場の施設を近く實現したいと念願して居ります。また女子の訓練に關する施設も、國家的に見て急務力もあると存じます。これ等に就いては、將來各位の共鳴と御協力とを願ひ、可急的速かにその實現することを期待してやみませぬ。下午の長談議を靜聽を煩はしたることをお詫言すると同時に、重ねて支部一結成に

至る迄の御厚配、御協力に對して御禮を申述べ、併せて將來の育成發展即ち國家の要望に副ふべき協會事業の充實強化に關し、大いに御支援、御盡砕一下さらんことを切望してやみませぬ。以上をもつて本日の發會式に際し、會長としての告辭を兼ね御挨拶を終ります。



會長告辭

昭和十六年十月二十九日  
於千葉縣史部發會式

參部 叔 實 號

十一



告 辞

本日茲に日本青年協會千葉縣支部  
結成式を舉行するに際し、公私御多  
忙中にも拘らず、長官閣下を始め  
各界官民有力者多數の御参列を  
得たことは、吾々協會の事業に携  
る者として光榮の至りに存じ、  
感謝措く能はざる所であります。  
御當地千葉は、東京に隣接し  
物心兩方面に於いて、東京の水



源池、源泉とも言ふべきであります。時局下縣民諸君が一致協力、その責務を果しつつあるのは、洵に心強く且つ御同慶の至りに存じます。

千葉縣下に於いては、日本青年協會の會員は相當の數に上り、その水郷黨に在つて協會精神を發揚し、その中軸として活動せられ、今日に至つて居ります。而

して支部發會の機運は夙に醸成されて居たのであります。より強力なるものを結成するため縣、市當局、聯隊区司令部、其他指導者間に於いて、格別のお骨折りに預り、茲に各會員共に強力なる支部の發足を見ることに成つたのであります。この機会に、各位の御盡力に對し篤き謝意を表し、尚今後の御支援をお願ひして置



きます。

改めて申す迄もなく、青年は國家の中堅を形成するものであり、殊に戰時態勢下に於きまゝしては戦線、銃後の別なく、彼等は悉く第一線に立って挺身努力するの重き使命を双肩に擔つて居るものであります。従つて強く、明るく、正しい青年を鍊成する事は國家の急務であり、彼等の階上落は國家

の衰退さへ招きます。古來中堅青年の頹廢、無氣力に依つて、國家の衰へたり亡ぶた例は、歴史の中に幾多現はれて居る通りであります。今次の歐洲大戰でもかかる例が吾々の眼の前に現實見へて居る下はありますせんか。斯様に青年の責務は重且つ大、青年悉く奮起するの秋國家は興り、彼等が減入りたる時國



家衰ふとさへ考へられらるるのであり  
ます。日本青年協會の使命は、この青年の重大なる任務に  
鑑み、これを正しく導き、心身  
共に健全なる國家の中堅人士を  
錬成、陶冶することにありるのであ  
ります。これが即ち國家興隆の  
土台石であるとの確信を以て邁進  
して居る次第であります。  
さて、この機會に、簡單ながら

日本青年協會誕生の由來を振り返り  
返つて見たいと思ひます。  
さきの歐洲大戰の反動に依つて、  
御承知の如く我が國の社會狀態  
は實に暗澹たる昏迷時代であ  
つたのであります。一例を擧ぐ  
れば産業界に於いては勞資が對  
立して急業、四能業等が盛に行  
はれ、神聖なるべき學園、總子  
校に於いては同盟休校とか教師



排斥騒ぎが、全国的に續出し、  
一般青年層は滔々として階上弱  
の氣風に馴れ、日本固有の道義  
全く地を拂ふの有様で、吾々と  
しては深き自愛へに閑されたもの  
であります。

換言すれば、十分に咀嚼消化  
せられざる外来思想、享樂的な  
文化の瀰漫によつて、日本精神に  
曇りが生じ、物質偏重、唯物

論の横行、個人主義或は歪められた  
る自由、享樂、浮華等の風潮が澎湃  
として全国的に風靡した際、東京を  
中心とする関東地方に大震災が突  
發したのであります。その際一般  
大衆の無秩序、無節制、固執狼狽  
の状は言語に絶するものがあり、  
私共はその渦中にあつて、これを目  
撃し、國民訓練の不備、不徹底を  
痛感すると共に、皇國日本の前途



に對し一抔の憂すら抱いたの  
であります。

かかる亡國的風潮を堰き止め、  
これを是正するには青少年の練  
成訓練の外はないと考へ、當時世  
論の囂々たる反對を押し切つて、  
かの學校教練と青年訓練とを断行  
したのであります。爾來、今日に  
至る迄青年訓練は青年學校に  
變りましたが、兩者ともに着目

その効果を収め、畏くも學校教練  
は昨年、青年學校は本年、宮城  
前に於いて御親覽の榮に浴する等、  
實施當初の實状を思ひ合せ、私  
には感慨無量なるものがある次第  
であります。

國家の中核たる青年は、同時に來  
るべき日本を背負つて立つ重責を  
帯びて居り、これが薰陶、陶冶に  
力を注ぐのが、第一の急務なりと



確く信じて學校教練と青年訓練  
が創始せられたのでありますが、こ  
の施設の遂行に呼應して、それ等  
に適應せる指導者を育成し、且  
又それ等の中堅となるべき有為の  
青年を訓練する目的を以て、昭和  
三年、日本青年協會の設立を見た  
のであります。私は創設以来、會  
長として及ばず乍ら、銳意、協會  
の目的達成に努力して来たので

あります。

爾来十有三年、協會は全國各方面  
の有力者各位の深甚なる理解と支  
持のお蔭を以て、次第に會勢の  
整備を遂げ、進歩發展の途を  
辿つて来たのであります。ただ徒  
らなる掛け聲、倒れ、或は紙真なる  
青年を煽動する連中や、ペーパー  
ランやイデオロギイの羅列で自己  
満足をする者の多、世相に當面



して、静かに過去を顧みますと、  
吾々は眞實に今昔の盛衰に打たれ  
ざるを得ないのではありません。

吾々は飽く迄日本精神を根幹と  
なし、學者、眞實際家の研究体験  
の一体化に重点を置き、専ら實踐  
躬行を本旨として進んできたの  
であります。それは有名なる吉田  
松蔭先生の松下村塾の精神に  
合致するものであり、心から心に

通ふ、魂と魂の觸れ合ふ、即ち  
温かい血の通った教育訓練を眼  
目とするものであります。

この眼目を以つて、日本青年協會  
が今日迄に育成しました幹部級  
の中堅青年は千余名、教練訓練  
の指導者約千名、更に各地方に於  
ける支部の講習によつて指導し  
た者二萬餘を算するに至つて  
居ります。と言つて、吾々は敢



てその数の多きを誇るもの下は  
ありませぬ。明治維新田天の大業  
は、殉國の熱意に燃ゆる薩長土肥  
等少數の人々の力に依つて達成せ  
られたのであります。吾々も真に  
實力ある有為の青年を全國各地  
方に持ち、而かも彼等を中堅とし  
て一部落、一村が覺醒し、これをも更  
に縣市に押し擴げて一致協力、この  
時局を雄々しく乗り切り更に大に

國運を進展せしめて行くことを、切に  
待望して止みませぬ。

次に協會の現状と將來の企圖を簡  
單に紹介して置きます。協會は東  
京麻布に本部を置き、地方各府縣に  
亘つて三十有餘の支部を有し、今後  
それをも増設擴充の計畫を進めて  
居り、明春までには四十有餘に達す  
るかと思ひます。而して本部には  
一つの道場を附設し、その他當縣の



船橋在には農業中心の勝牝産道場、  
この道場は創設以来十年を経過  
し、全国各地方からの選抜されて来  
た青年が、營々として土を耕し、  
鎌を揮ひ農場経営の一新生面を  
拓かんとして居ります。また甲  
州八ヶ岳の中腹に學生の爲に夏期  
修練道場、近江商人發祥の由緒を  
持つ滋賀お五ヶ莊村には、高工五月  
年と土に歸一らしめて鍛錬する

関西道場、六甲山林麓に洋々たる  
茅亭の海を眺めて兵庫高工青  
年道場、更に新らしく東北には  
福島道場、近く旬日後に新装  
を整へ道場開きを行ふ大阪高  
工青年道場等があります。

また協會としては設立以来、青  
年の海外發展は國策として極めて  
緊要であると考へ、種々の施設を  
試みて来たのであります。而して、



國、北支等については、近年政府當局で力を注いで居りますので、この方面はそちらにお任せとして、吾々は南支、南洋方面に着目して御奉公致し度いと存じ、先年来、各當局と交渉/連絡して、南進基地として台湾に道場建設の計画を樹てたのであります。測らずも台湾總督府に於いて拓士訓練道場を台中

に新設せられることになり、その經營と指導とを協會に委託せらるるに至り、既にその第一回生約百名は道場に在りて南方開發の先驅者たるべく勉強して居ります。而かも協會で訓練を受けたる青年の中から、海南島に赴いて拓士としての使命を遂行中の者も相當数に上つて居るのであります。最近同島を親しく視察し



て来た人の誌では、青年協會出身の青年開拓者達が、海南島の各地に散在して、相互に連絡を取り乍ら懇々として献身的努力を續けて居り、それを模範人物として推奨せられて居るとのこと、吾々としては頗る愉快に感した次第であります。

然らば、協會は今後如何なることを企圖して居るかと申します

れば、内外多事多端の折柄、協會本来の使命に鑑み一層事業の充實強化をはかると同時に、新しい計画を樹てて居りますが、現勢に即應し緩急をはかり適當に按配して行かねばならぬと考へて居ります。海洋道場の計画も進めて居りましたが、これは海軍當局で施設せらるる事に成りましたので、その方にお任せ



する事に致し、地下資源開發の  
戦士のために鑛山青年道場の施設  
を近く實現すべく、目下調査研  
究を進めて居ります。又國民の  
半數を占める女子の訓練、再教  
育に關する施設も、國家的に、  
大乗的に見て急務であると思  
じて居ります。これ等に就いて  
は將來各位の共鳴と御協力とを  
願ひ、なるべく速かに實現する

ことを念いて止ませぬ。

下午の長談義で静聽を煩はし  
たことをお詫びすると共に、重ねて  
當支部結成式に至る迄の御厚配、  
御協力に對して謝意を表し、併  
せて今後の育成發展即ち國家の  
要望に副ふべく協會事業の充  
實強化に關し、大いに御支援、御  
盡澤一下さる人ことを切望致し  
ます。千葉縣支部は雄々しく



産聲を揚げたのであります！  
これが健全にして着実なる長  
發展は、各位の御力に依ると  
ころ毎員に大なるものがあります。  
以上を以て本日の記念すべき發  
會式に際し、會長としての告辭  
を兼ね御挨拶と致します！



參部ノ好策考號

大阪商工青年道場開之ノ式辭

昭和十六年十月十六日  
於大阪道場



式辭

本日茲に日本青年協會大阪商  
工青年道場開の式を舉行するに  
際し、公私御多忙中にも拘らず、  
各界官民有力者多數の御参列を  
得たことは、吾々協會の事業に携  
る者として、光榮の至りに存じ、  
感謝措く能はざる所であります。  
御當地大阪は、古くから日本の商  
工業界の中心であり、謂はば日本



の心臓部であります。

従つて今日の時局下にあつては、大阪の果しつある役割は、極めて重大なりと言はざるを得ませぬ。昔の国防観念からは、戦争は単なる武力戦に終始するものと見られたのであります。が、今日の戦争にあつては、軍需資材の夥しい消耗は必然的に国力生産の擴充を促し、外交、經濟、思想、科學等あらゆる分野

に亘つて、武力戦と結びつて、すべてこの國家活動が直接戦争に参加するものになつたのであります。國家總力戦は、戦線、銃後を一体化して、與國間的な緊張を要望して居ります。この秋に際して、逸早く大阪の有力者各位が、産業界の戦時体制を整へ、一致協力してその責務を果しつあるのは、國家のため洵に心強く、且つ衷心より喜びに堪えない次第であります。



ここに改めて申すまでもなく、青年は國家の中堅を形成するものであり、國家の推進力として、戦線、戦後の別なく、挺身努力するの重き使命をその双肩に擔つて居るのてあります。従つて強く、明るく、正しい青年を鍊成することは國家の急務であり、彼らの階上落は國家の衰退さへ招きます。この事は古來の國家興亡の歴史に徴して

も明白であり、今次の大戦に於いてもその例を吾々は眼前に目睹して居ります。

斯様に青年の責務は重且つ大、青年悉く奮起する時國家は興り、彼等が減入りたる時、國家衰ふとさへ考へられるのであります。と同時に、青年はよき先輩の正しき指導の下に、次ぎの時代建設のために鍊磨、鍛鍊をなすの人的資材でも



あります。

日本青年協會の目的は、この青年の重大なる任務、使命に鑑み、水を正しく導き、清明、純潔、心身共に健全なる國家の中堅人材を鍊成、陶冶することにあるのであります。即ちこれが國家興隆の土台であるとの確信を以て、益々會勢を擴充整備して、今日に至って居るのであります。この時

に當り、大阪の有力者各位の衷心よりの御共鳴と御支援に依り、御覽の通りの完備した商工青年道場の竣成を見るに至りましたことは、洵に有意義であり、協會を長として深甚なる謝意を表します。

さて、この機會に、日本青年協會日創立の由来を、簡潔に回顧して見たいと思ひます。

御承知の如く、我が國は明治維新



以後、急速に歐米の文化を攘り入れ、日清、日露の國難を克服、したのてありますか、戦勝の餘蘊は稍もすれば本末を顛倒するか如き傾向を生じ、我が古来の美風に相及するか如き世相を生むに至り、一般の人心は聊か弛緩の有様であります。それが、第一次歐洲大戰に依る所謂好況時代、成金時代の波に煽られ、浮華輕佻の風潮

は、急速に社會各層に全國的に瀰漫し、個人主義、利己主義、歪められたる自由主義の横行となつたのであります。而かもその間、左翼の思想の著入を見、洵に嘆かばし、事なから、國體の本義を忘却して、怖るべき妄動を敢てする者さへ出で、思想界は未曾有の混亂を來し、綱紀、秩序は弛緩し、虛無的な行動を基礎として、國防觀念を



稀薄ならしめるやうな、實に  
憂ふべき世相を呈したのちあり  
ます。換言すれば暗澹たる昏迷  
時代があつたのである。會員例を  
あぐれば、産業界にあつては労働  
者と資本金家が相對立して、急業  
罷業等が盛んに行はれ、神聖な  
るべき學校にあつては、同盟休  
校とか、教師排斥等の騒ぎが全  
國的に續出し、一般青年の風潮も

刹那的享樂に酔ふといふ始末で、私  
共としては心の底から深き自愛之を  
抱いた次第であります。

かかる情勢の最中に、偶々、大正十二  
年九月、彼の東京を中心とする関東  
の大震災が突發したのちあります  
が、この震災に際して一般大衆の  
無秩序、無統制、周章狼狽の状は  
實に言語に絶するものがあり、私共  
は之水を目撃し、國民訓練の不



徹底を痛嘆すると共に、日本の前途に對し、憂愁の念すら抱いたのであります。

かかる過渡期に際し、畏くも國民精神作興に關する詔書を下し賜ふたのであります。が、聖慮の程、恐懼にたへぬ次第であります。私は陸軍大臣でありましたか、何とかしてこの亡國の風潮を堰き止めねばなら

ぬと考へ、當時世論の騒然たる反對を押し切つて、かの學校教練と青年訓練とを断行したのであります。爾來、今日に至るまで、青年訓練は青年學校に改まりましたが、兩者共に所期の効果をあげ、何れも御親覽の光榮に浴し、戰時下の現在にあつては必須、不可缺の施設とされて居ります。實は當初の實情を思ひ合せ、私としては感慨に深く



軽た無量のものがあります！  
以上の二大施設に因縁して、有  
爲にして真に頼むに足る青年指  
導者を育成し、且つ水らの中堅  
となるべき青年を薫育する機関  
として、昭和三年、日本青年協會  
の創立を見たのであります！。私は  
今日まで、十有三年、會長として、  
微力ながら、目的達成に努力して  
来たのであります！。

而して私共は、空疎なる掛け聲、倒  
れとか、徒らに青年を煽動する連  
中とか、紙上計画やイデオロギーの羅列  
を排し、あくまで着實に、學者、實  
際家の主張、体験の一体化に重点を  
置き、専ら實踐能行を本旨として、  
進んで来たのであります！。それは有  
名な吉田松蔭先生の松下村塾の精  
神に合致するものであり、心から  
心に通ふ、魂と魂の相呼應する、



即ち暖かい血の通った教育、訓練を  
眼目とするものであります。

この眼目を現実化するために、協會  
は東京麻布の本部に一つの道場を  
附設し、協會精神の普及徹底の  
機關雑誌を發行して居ります。

更に地方にあつては、千葉縣船橋在  
に勝牧農農民道場、甲州八ヶ岳の  
中腹に學生の爲の夏期修練道  
場、滋賀縣五ヶ莊村に關西道場、

兵庫縣六甲山林麓に兵庫高工青年道  
場、東北の福島市に福島道場を有  
し、且つ海外進出を志す青年のため  
には台湾總督府からの經営、指導す  
を委託されて居る台湾拓土訓練道  
場を持つて居ります。

これらの道場は農業、高工業、  
學生、海外進出の先驅者といふ風に  
鍊成する青年の志向、職業等の  
區別かけられて居りますが、相



通ずる目的は、真に皇國のため  
役立つ、縁のため、分の厚み、幅のあ  
る、而かも腕の決えた青年を鍊  
成することに歸一するのでありま  
す。茲に新しく竣工いたしました大阪  
商工青年道場の目的も亦この意  
に存すること、改めて申上ぐるま  
でもありませぬ。日本の心臓部にこ  
の道場が誕生いたしました事は、時局  
に照應して、極めて有効適切で

あり、また協會としても一大威力  
を具有したものと信じて居ります。  
吉田松蔭先生は松下村塾に就いて  
「松下陋村と雖も、誓って神國の幹  
となさん」と言って居りますか、吾  
々はこの道場を以つて皇國の柱とな  
す決意を以つて、今後の經營、指  
導に當る所存であります。然し、  
吾々の力を以つてのみ、その目的を達  
することは容易ではありません。



従つて、地元の有力者各位の絶えざる指導と支援に俟たねばならぬと考へます。各位は、この道場を御自身のものとして考へられて、自らを愛し、自らの職域を愛し、その使命に忠なる如く、この道場を愛し、以つて心からの支持を與へられんことを、切望してやみませぬ。

道場の位置は、現在交通に便なりとは申せぬが、厩前に

仁徳天皇の御陵を拜し、履中、反上両天皇の御陵墓にも近く、遠かに葛城、金剛の山容を眺め、遠く生駒の連山と一望見とれます。而かも周域は開濶にして、青年の魂の練成場所としては絶好の條件を具存してゐるものと思ひます。完成への途上にある若草の如き青年は、その環境に依つて善くもなり、悪くもなるもので



あります。

仁徳天皇は百姓の貪しきは、則ち朕が貪しきなり、百姓富めるは即ち朕が富めるなりと宣へ給ひましたか、歷代天皇の御心は、常に仁を以て、民草を慈心しみ給ふたのであります。故に國民は、天皇を大御親と仰ぎ奉り、ひたすらに従順の誠を致すのであります。こ水が即ち我が國体の

精華であること確く信じて居ります。

また金剛山に於ける楠正成公の誠忠は、全日本人の心魂を揺り醒ますには置かぬものがあります。かかる生きた史実を、朝に夕に自らの眼をもつて、親しく讀むことの出来るのは、青年の心の糧として得難いものがあること存じます。更に隣接の



堺市は古くから開港場として知られ、今日に於いても大阪市の外郭として高工業の中核をなして居ります。斯様な非凡な氣を常に呼吸して、新しい時代の高工業青年が、力強く、而かも明朗に鍊成される日か、まさに到来したのであります。時局は文字通り重大であります。太平洋の波は平穏であります。生産力擴充に、配給機構の適正化

に、生産業者青年の職域に盡す責任は、愈々その重大性を加へて居ります。武力戦に於ける支那事變の勝敗は、既に決して居ると言つて差支へないのであります。事變はまだ完遂の途上にあります。その上、國際情勢は歐洲戰の推移と密接な關聯を有し、微妙を極めて居ります。國家總力戰の本舞台はまさにこれからあります。



産業都市、日本の心臓部としての大阪が、時局の線に沿ふて、その底力を發揮するのにも、まさにこれからでありませう。然し乍ら底力を發揮する根本は、産業に従事する人間にあります。斯様に考へて参りますとその人間を導いて行く各位の責任は、益々重く、同時に商工青年の覺醒が焦眉の急務と成つて居るのであります。傳統的な大阪の商工精神に、

新しい時代の息吹を感へることが、何よりも緊要であると考えられます。工場には工場の指標があり、商業にはその道がある。それを完全に踐み進むことが、尊敬されるべき人間の軌道であります。かかる見地に於いて、どこへ出しても恥しなくなひ、真に日本人としての商工青年を鍊成するのが、この道場に課せられた使命であると思つて居ります。



道場の建物は出来ましたか、さて、  
これから魂を入れ、これを有機的に  
活用するのは、青年協会の任務であ  
り、今日まで絶大の支援を與へら  
れた各位の責務であるとも考へられ  
ます。而して画龍点睛、真に大  
阪商工青年の心の故郷、魂の揺  
籃として、この道場を生かして行  
き渡いと念願して居ります！  
なほ一言、して置きますが、大政翼

賛會の壯年團或は産業報國會と  
本協會の關係について、往々誤解さ  
れてゐる向があるやうであります！  
然し、協會としてはこれらの團體の  
指導者及び中核となるべく、青年  
を訓練育成する機關であつて、決  
してこれらと對立關係にあるもので  
もなく、また重複するものでもあ  
りませぬ。寧ろ、これらの團體に  
有爲の人材を供給する温床なので



あります。かかる見地にたつて現  
在まで、訓練育成しました幹部級  
の中堅青年千余名、教練指導者約  
千名、各地方支部に於いて講習し  
た者二万余を算し、何れもその職  
域、その郷黨にあつて活躍を続け  
て居ります。彼等の活動に依り  
一つの團體、一村、一郡、一府縣、甚  
ては一國の興隆が期待せられ居  
るのであります。

下午の長談義を續けました。今  
日この記念すべき日に臨んで、私は  
重ねて各位の御厚配、御協力に  
對して謝意を表し、道場今後の  
發展即ち國家の要望に副ふべく  
協會事業の充實強化に關し、  
御盡す下さらんことを待望致し  
てやみませぬ。これを以つて、この道  
場開の式に際し、日本青年協會  
の會長としての御挨拶を終ります。







